



《 巻 頭 言 》

2020教育改革目前

北会津小学校長会副会長 唐 司 和 彦
(会津若松市立鶴城小学校)

今から10年くらい前、知り合いの高校の先生が「大学入試制度が大きく変わるぞ。そのためにも、高校だけでなく、小・中学校から授業をアクティブ・ラーニングに変えていかなければならない。」という話を熱くされていたのを思い出す。その後、大学も含めた教育改革は、着実に進められ、昨年度の幼稚園教育要領完全実施に始まり、来年度からは小学校から順に学習指導要領が完全実施される。ただ、ここに来て、大学入試改革については、英語民間試験導入が見送られ、大学入学共通テストに導入予定の国語・数学の記述式試験の採点に疑義が出てその是非が問題になるなど、2020年教育改革目前にしてやや混乱も見られる。

今から40年前にも大学入試制度改革があり、国公立の大学入試に共通一次テストが導入され、私達はその一期生となったことを思い出す。十分議論を重ね準備されていた感があり、入学当初から、「君達はその一期生」という話がされるとともに、プレテストを受検するなど、入念に進められていた。ただ、当の本人は、入念な準備なく3年生を迎え、仕上げの時期、ひどく苦勞した。これから受験を迎える高校生や、今後、直面するであろう子ども達のことを思うと、その行方が決まらないということは本当に心配でならないと思う。議論の上、早急に明確にしてほしいと願っている。

現在進められている教育改革は、加速度的に社会が変化し、予測困難な時代を迎えている中、未来の形成者である子ども達に必要な資質・能力を身に付けさせていくにはどうすればよいかという議論のもとに進められてきたものである。幼稚園から大学まで一貫した理念のもとに進められたという意味では、これまでにない大きな教育改革である。この理念を着実に推進していくことが我々校長の責務であると考えている。新学習指導要領全面実施を来年度に控えた今、これまでの移行期やこれからの編成作業を通して、「社会に開かれた教育課程」、「カリキュラム・マネジメント」、「資質・能力の三つの柱」、「教科等の見方・考え方」等への理解をさらに深めるとともに、子ども達と学校の未来を見据えた次年度の教育課程編成を進めていかなければならない。そして、編成された諸教育計画を実現するためにも、教育改革とほぼ同時進行している働き方改革をできるところから進め、教員が子どもと向かい合う時間の確保、授業づくりに専念できるという環境づくりに努力していかなければならないと考える。

課題は山積ではあるが、まずは、自分自身の意識改革、そして、一つ一つ具体化するための行動、そして、この校長会の横のつながりを大切にしながら、先生方と「主体的・対話的・協働的に」に学校経営を進めようと思う。